

大分市地域まちづくりビジョン

野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議通信 第3号

発行：令和4年2月1日 野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局（野津原支所 ☎588-1111）

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取組をまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、平成30年7月に市長に提言されました。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政が一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、取組状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

令和3年度野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議

■令和3年11月25日(水)18:00～

■野津原市民センター 大会議室

開会

1. 新任委員・職員紹介
2. 会長・副会長選任
3. 会長あいさつ
4. 議事

- (1) 会議の公開について
- (2) 地域まちづくりビジョン及びフォローアップ会議について

- (3) 地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗について
- (4) ななせダム水源地域ビジョンについて
- (5) 大分市過疎地域持続的発展計画について
- (6) 今後の予定について

5. その他

閉会



◆地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況（抜粋）

事務局より野津原地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況を説明し、意見交換を行いました。
※地域まちづくりビジョンの提案事業内容については裏面の概要版をご覧ください。

提言1：ななせダムを核とした地域振興

提案事業1 国道442号の朝地までの拡幅

提案事業2 スポーツを通じたまちづくり事業

提案事業3 ダムの魅力を活かした地域づくり

取組状況

■国道442号線の朝地までの拡幅については、地元期成会や他都市と連携を図り、引き続き事業主体の県へ要望していく。（地域・行政）

■七瀬の里Nクラブ主催によるサッカー大会、マラソン大会の開催や、ウォーキング協会主催による大分ゆうゆうウォーク等の開催。（地域）

■野津原地域の各所に作品を展示する「のつはるアートコレクション」や「音の森フェスティバル」の開催、「野津原周遊マップ」の作成。（行政）

■民間団体と行政が協力し、ダム湖周辺の清掃や植樹等の環境整備活動への取組み。（地域・行政）

地元期成会による大分土木事務所長への要望



【事例発表】 ●七瀬の里Nクラブが実施している、のつはる天空広場での「天空フェス」、ダム湖周辺の「山桜マラソン大会」等の取組みを紹介。

主な意見

- もっと地域の人を呼び込むための働きかけが必要。
- 行政に頼るだけでなく、行政と相談しながら、地域でできることは地域ですという形が必要ではないか。



音の森フェスティバル

提言2：地域コミュニティの維持・活性化

提案事業4 小学校跡地の利活用（中部・西部・今市）

提案事業5 助け合いを実現するやさしい地域づくり

旧中部小進入路改良工事（R3.12月）



取組状況

■【旧野津原中部小学校】地域住民との交流を促進し地域活性化に繋げるアートレジオン事業（芸術家による校舎利用）や進入路の改良工事を進めている。（地域・行政）

【旧野津原西部小学校】ダム周辺施設等と連携し、地域の活性化を図るため宿泊型社会教育施設として整備し令和4年度供用開始予定。（行政）

【旧今市小学校】売却先の受託候補者が決定し、校舎、グラウンドの売却手続きを進めていく。（行政）

■「地域ふれあいサロン」「生き生き元気教室」「食の自立支援事業」「緊急通報サービス事業」等の高齢者の生活・活動支援や、地域のふれあい・結びつきを深める校区ふれあい講座の開催。（地域・行政）



地域ふれあいサロン

【事例発表】 ●大分県立看護科学大学学生による高齢者のよりよい生活や健康の実現を目的とした「予防的家庭訪問実習」の取組みを紹介。

主な意見

- 旧今市小学校跡地売却の後も企業と地域が一体となって地域活性化に取組めるよう引き続き行政の協力をお願いしたい。
- 看護科学大学の取組みは、今後も是非継続していただきたい。
- 官民の連携が取れ、良い流れで取組みが進んでいると感じる。

提言3：豊かな自然・文化財を活かした観光の振興

提案事業6 観光農園の開発促進事業

提案事業7 野津原の桜の名所×ウォーキング×（桜）の特産品

提案事業8 ふるさとの旧跡・民話めぐりガイド事業

野津原郁々堂



取組状況

■田ノ口地区においてレクリエーションや自家用野菜の生産、子どもの食育等を目的とした市民農園の開設。（地域）

■商工会女性部が県や国の補助金を活用して、野津原小児童が考案のパンケーキやクッキーを商品化し、それを道の駅のはるが販売。（地域・行政）

■ボランティアガイドへの活動支援や今市石畳沿いの旧屋号案内板の整備。（地域・行政）

■伝統文化の継承、地域への愛着、誇りを育む取組みとして、小中学生を対象にふるさとの歴史を学ぶ講座「野津原郁々堂」をボランティアガイド協議会の協力により開催。（地域・行政）



のつはるきせつクッキー

【事例発表】 ●ダム湖周辺の桜植樹について、西部校区の住民と行政が連携して準備を進めている取組みを紹介。

主な意見

- ダム湖周辺に観光客を呼び込むために、周辺を桜だけではなく、コスモスやひまわり等、年間を通じて楽しめる美化活動が必要。
- 小学生考案のパンケーキやクッキーの商品化は販売まで辿り着き、成功した取組みで、子ども達にはよい経験になったと思う。

野津原地域まちづくりビジョン以外の議題について

■ななせダム水源地域ビジョンの概要及び取組み状況について説明し、質疑応答を行った。

■大分市過疎地域持続的発展計画について説明し、質疑応答を行った。

「ふれあい市長室～あなたの地域のまちづくりビジョン～」

今年度は、地域まちづくりビジョンに関連した活動を行う団体を対象に開催いたしました。

■野津原地域の対象団体：「野津原西部校区まちづくり協議会」

■開催日：令和3年8月27日（金）

■内容：団体代表者挨拶、市長挨拶、活動報告、意見交換、市長感想、記念撮影（団体から14名参加）



野津原地域まちづくりビジョン概要版

野津原地域の将来像（コンセプト）

ダムに夢を 森といやしの里 のつはる

将来像への思い

高齢化に伴い、高齢者福祉の充実が必要という意見や学校統廃合後の教育環境の問題、基幹産業の農林業の振興、国道442号拡幅問題などの地域課題が山積しています。「ななせダム」や「道の駅」の完成を契機に、自然豊かな野津原をPRし、明るいまちづくりをイメージしてこのコンセプトとしています。

提言1：ななせダムを核とした地域振興

豊かな自然環境に囲まれたななせダムは、野津原地域最大のインフラとしてその魅力を最大限に活用していく必要があります。今後、道の駅登録を目指す「交流拠点」や、野外音楽ステージを設置した多目的広場などとのハード間での連携を軸に、マラソンなどの各種スポーツイベントなど、地域に人を呼ぶ仕掛けづくりについての支援を望みます。



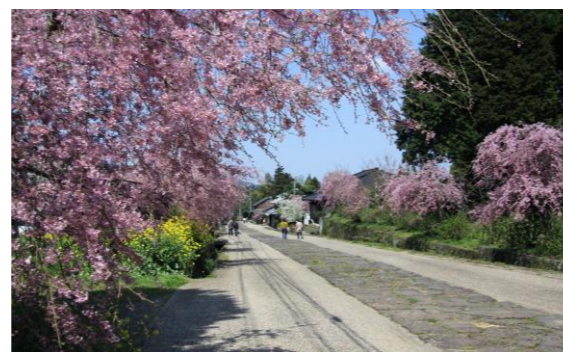
提言2：地域コミュニティの維持・活性化

学校の統廃合をはじめ、脆弱な通信網や公共交通の不便などにより、コミュニティの希薄化が進行するとともに、若者の移住・定住の意欲低下が危惧されます。急速に進む高齢化に歯止めをかけるため、希薄化するコミュニティの維持・活性化を図るための場の創出や、若者を地域に呼び込む取組を望みます。



提言3：豊かな自然・文化財を活かした観光の振興

ななせダムのほか、野津原にある、美しい自然や景観、地域の伝統文化、豊かな食材等、地域の観光資源を活かしたイベントや名産物の開発等を支援することなどにより、魅力あふれる観光地域づくりの推進を望みます。



提言に基づく提案事業一覧（取組内容）

提言1

提案事業1：国道442号の朝地までの拡幅

- ダムや交流施設の建設に伴い、国道442号を拡幅し交流人口の増加を図る。
- 地域においても期成会活動を県に対し引き続き実施する。

提案事業2：スポーツを通じたまちづくり事業

- 災害時の避難所としても利用できる総合体育館を新設する。
- スポーツを通じて人を呼び込み、地域を活性化する。

提案事業3：ダムの魅力を活かした地域づくり

- ダムの魅力を活かしたイベント等を周辺で実施し、人を呼び込むまちづくりを推進する。
- 親子で楽しめるイベント（いも掘りなどの収穫体験事業）
- 健康意識を高めるイベント（ウォーキング、マラソン、健康教室、ラジオ体操など）。
- 年間を通して野津原に来てもらえる企画づくり（集客を増やすには健康食品や季節の食材など「食」を絡める必要）。
- 周回道路におけるさまざまな種類の桜の植樹（地域外の人に桜のオーナーになってもらう）、交流拠点での食事や季節の食材の販売などといった観光面での強化を図り、1日中観光客が楽しめる体制をつくる。

提言2

提案事業4：小学校跡地の利活用（中部・西部・今市）

- 小学校跡地を地域の交流の場として利活用する。
- 小中学生と地域のふれあい活動を実施（校舎は校区公民館として利用）。
- 野津原の多世代交流の促進（子どもから高齢者まで参加できる料理コンテストを実施し、野津原の季節の食材を使った料理やお菓子、我が家自慢のお漬物などを競い合う。優勝作品は交流拠点で販売し、SNSなどで地域外へもPR）。
- 宿泊できる施設として整備を行い、ダム周辺施設と連携し、地域の活性化を図る。

提案事業5：助け合いを実現するやさしい地域づくり

- 様々な分野のボランティア人材バンク制度の創設。
- 野津原の優れた人、物を繋げるコーディネーターの発掘・育成。
- 一人暮らし高齢者などに対する支援（交通・ブロードバンドなど）の充実。
- まちづくりを推進する多様な組織、団体の構築・支援。

提言3

提案事業6：観光農園の開発促進事業

- ぶどう、いちごなどの観光農園や、商品の開発（地域資源を利用）。
- 野津原の一村一品を観光に活かす（にら、いちご、豊の七瀬柿、しいたけ、豊後牛など）。

提案事業7：野津原の桜の名所×ウォーキング×（桜の）特産品

- 桜を活かした野津原の特産品の開発や、バスやウォーキング、マラソンなどで、野津原を巡るイベントを実施する。

提案事業8：ふるさとの旧跡・民話めぐりガイド事業

- 小学生にボランティアガイドとして野津原の旧跡をガイドしてもらう（教育機関との連携）。
- 伝統文化を継承し、地域への愛情と誇りを育むのと同時に、SNSなどで地域資源の情報発信をする。